

## 46 当院における他科依頼肝疾患の現状

安住 基・須田 剛士・横尾 健  
 山本 幹・土屋 淳紀・五十嵐正人  
 田村 康・高村 昌昭・川合 弘一  
 山際 訓・野本 実・青柳 豊  
 松田 康伸\*

新潟大学大学院医歯学総合研究科  
 消化器内科学分野  
 新潟大学大学院保健学研究科  
 臨床生体情報検査科学\*

HBV感染者において、免疫抑制や化学療法によりHBVが再増殖することを、HBV再活性化と称する。特に既感染者からの再活性化による肝炎はdenovoB型肝炎とよばれ、重症化しやすいことが知られている。

今回当科における他科依頼肝疾患の現状を、B型肝炎の再活性化を中心に調べた。

過去3年間で当科に肝疾患での依頼があり、当科にて精査加療をした患者は合計584人であった。同じ期間で、他科から依頼があった免疫抑制状態の患者で、当科にて核酸アナログを投与した患者についても調べた。治療開始前にHBs抗原陽性で、ガイドラインに沿って投与した人は7人、治療開始前のHBs抗原陰性例が4例で、HBs抗原陽性で治療開始され肝炎を発症した症例も1例存在した。

日本のHBVキャリアは約1%であり、既感染者も3から4人に1人いると予想されている。再活性化のリスクは、免疫抑制の比較的弱いものでも1%程度あることが予想されており、当院の予想されるキャリア数や免疫抑制状態の患者の人数と依頼数を考えるとガイドラインが徹底されていない現状があきらかとなった。

## 47 PET-CTにてFDG集積を認めた多発肝腫瘍の1例

栗田 聡・青柳 智也・加藤 俊幸  
 佐々木俊哉・船越 和博・成澤林太郎

県立がんセンター新潟病院内科

症例は59歳、女性。右尿管結石治療前のCTにて多発肝腫瘍を認め、当院紹介。血液検査ではALPの軽度上昇を認めるのみであった。

・腹部CT：多発する径10mm前後の低吸収域が多発。同部は造影早期相では造影不良域として、平衡相では周囲と同様に造影される領域として認識。

・肺CT：リンパ路に沿った小粒状影、および気管支壁の肥厚。

・PET-CT：肺門リンパ節や肺野病変、多発肝結節にFDGが集積。

以上より転移性肝腫瘍、悪性リンパ腫、サルコイドーシスなどを鑑別にあげ、エコー下肝生検を施行。

結果、肝生検組織では有意な所見を得られず、後日施行した経気管支鏡肺生検にて類上皮肉芽腫を認め、サルコイドーシスと診断した。

PET-CTにおいて、FDG集積は必ずしも癌の存在を示すものではなく、各種画像所見、血液検査所見、臨床症状などを合わせ総合的に診断することが重要である。

また、日常的に施行されている肝生検であるが、その目的や症例の特徴を十分検討し、慎重にアプローチすることが重要である。

## 48 熱中症による急性肝不全の1例

伊藤 徹・阿部 聡司・石川 達  
 井上 良介・菅野 智之・渡邊 雄介  
 岩永 明人・関 慶一・本間 照  
 吉田 俊明・石原 法子\*・西倉 健\*

済生会新潟第二病院消化器内科  
 同 病理診断科\*